

カスタマイズカフェ

— 住民参加型設計のまちづくり提案 —

背景

近年、まちづくりという行為と建築家との間にある溝は深まりつつあります。『環境』や『福祉』といったようなソフトな取り組みに重きが置かれるまちづくりが現在の主流となる一方、建築家はハードなモノの構築を生業としているためです。しかしまちづくりが世間一般にソフト・ハード両面から課題の解決を図ろうとするプロセスだと捉えられている以上、まちづくりという行為からの建築家の離脱は容易には考えられません。

今まで多く行われてきたトップダウン方式のまちづくりは、住民の意見よりも建築家による施設の設計が先行し、それゆえどうしても住民たちの理解が得られにくいものでした。

そこで、『設計』というフェーズにももっと住民が積極的に参加できる方法の検討と設計フォーマットの作成を行い、今回の提案とさせていただきます。

設計対象

地域住民の関わり促進する掲示板の役割を担うような携帯アプリの登場など、人々が顔を合わせて話すことが極端に少なくなった社会ではいろいろな形でコミュニケーションの不在を打開する策が展開されてきました。しかしながら防災・防犯・復興など、様々な観点から、地域住民たちが顔を合わせる形でのコミュニケーションの必要性が改めて議論されはじめています。そんな中で今、『コミュニティカフェ』の勢いが強まっています。コミュニティカフェとは、「地域社会の中で“たまり場”、“居場所”となっているところの総称」です。カフェという機能を持たせることで、人々が気軽に集まりやすく、この場所が地域コミュニティの核となりやすいこと、その収益からイベント等の地域活動が行いやすくするなどの利点があります。さらに今回はこのコミュニティカフェの設計というフェーズもまちづくりの活動の一環として行える提案としているため、役割や雰囲気などのイメージがしやすいカフェという形態は今回のまちづくりの提案に適しているといえます。

提案内容

【まちづくりの手法として】

- ① 今まで建築家が行ってきたまちづくりにおける『設計』のフェーズを、地域住民が主体となって進めていきます。その後、建築家が条件の整理等を行い空間として立ち上げるという順序をたどることで、地域住民と建築家というまちづくりにおいて相容れない関係だった両者の分業が成立します。
- ② 『設計』というフェーズを今回の提案のようにわかりやすく簡単な作業に置き換えることで、老若男女問わず『設計』に参加でき、地域住民の広い交流を促します。
- ③ 『設計』を自らの手で行うことで、住民たちの思い入れは強くなり、長く愛されるみんなの居場所になります。

カスタマイズカフェによる みんなのまちづくり

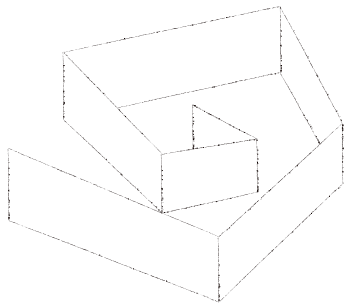
新しいまちづくりは、住民たちによる設計からスタートします。

設計といっても、まちの人たち誰もが参加できるように、できるだけ簡単な作業になるといいな…。

そこで、空間を構成する大きな要素である『壁』を、一枚のシート状にしました。

1.

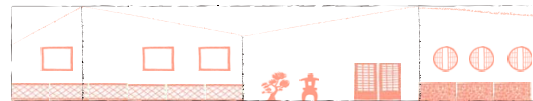
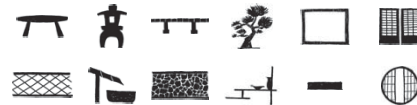
一枚のシートを折って内側に巻き込んでいくことにより、渦巻き状の空間がつくれます。



2.

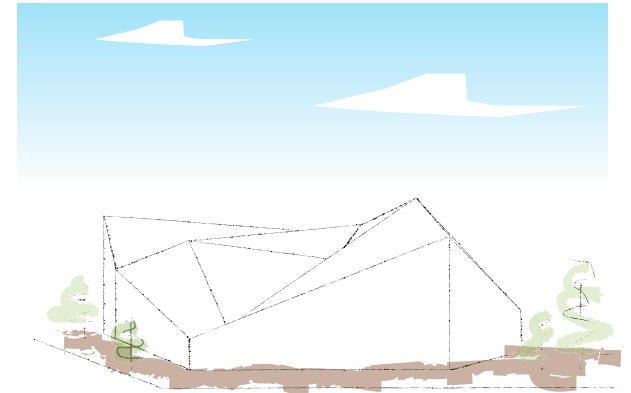
住民たちは、カフェ空間に盛り込みたい『要素』を下図のようなアイコンから選択し、屋根高さと共に1で作ったデザインシートにカスタマイズしていきます。

例) 日本風アイコン



3.

建築家がデザインシートから条件や要望を整理し、住民の提案をカタチにします。

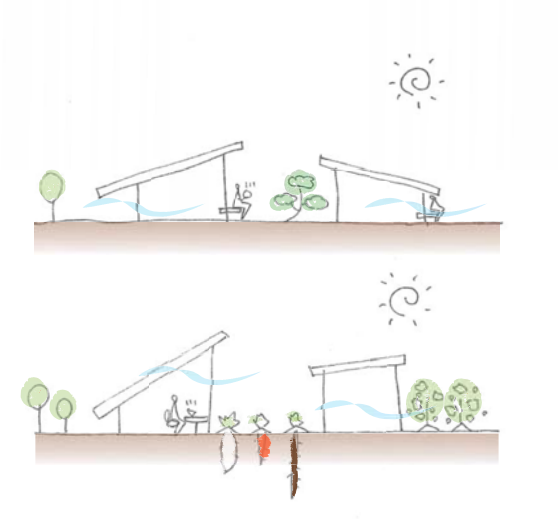


4.

カフェのメニューや空間の使われ方など、たくさんの意見を交わしながら、住民たちはカフェのオープンまで見守ります。

5.

まちにできたカフェは、時間の経過とともに地域性を取り込んでいきます。



6.

みんなで作ったカフェは地元の人々に愛されるだけでなく、地域外からもたくさんの人が訪れ、やがて地域のシンボルになりました。

カスタマイズ例

古い街並みに合う、『日本らしいカフェ』をコンセプトに設計。

住民たちが話し合いながらアイコンを選択し、帯状の紙に並べます。(図1、2)

建築家はもらったデザインシートを基に、空間として立ち上げます。今回のデザインシートを基にできた空間は、開放感あふれる中庭と縁側を持ったカフェでした。(図3)

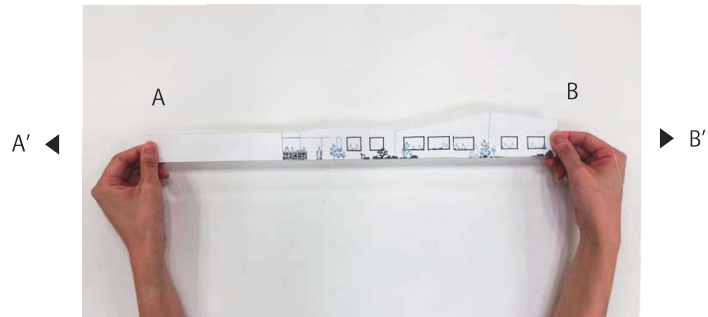


図1

◆縁側

縁側部分では座布団などで席数を調整することができる。壁を挟んで外にも縁側空間を拡張することで、内と外の境界を曖昧にし開放感を演出する。

◆大きな屋根

外部の縁側部分にもかかるような大きな屋根。屋根の下には人々が集い、このカフェは自然と地域住民のよりどころとなる。

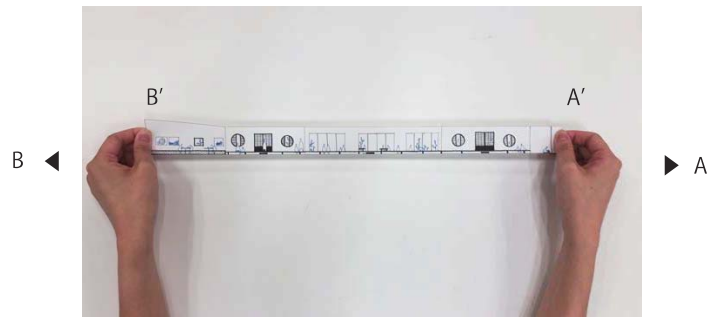
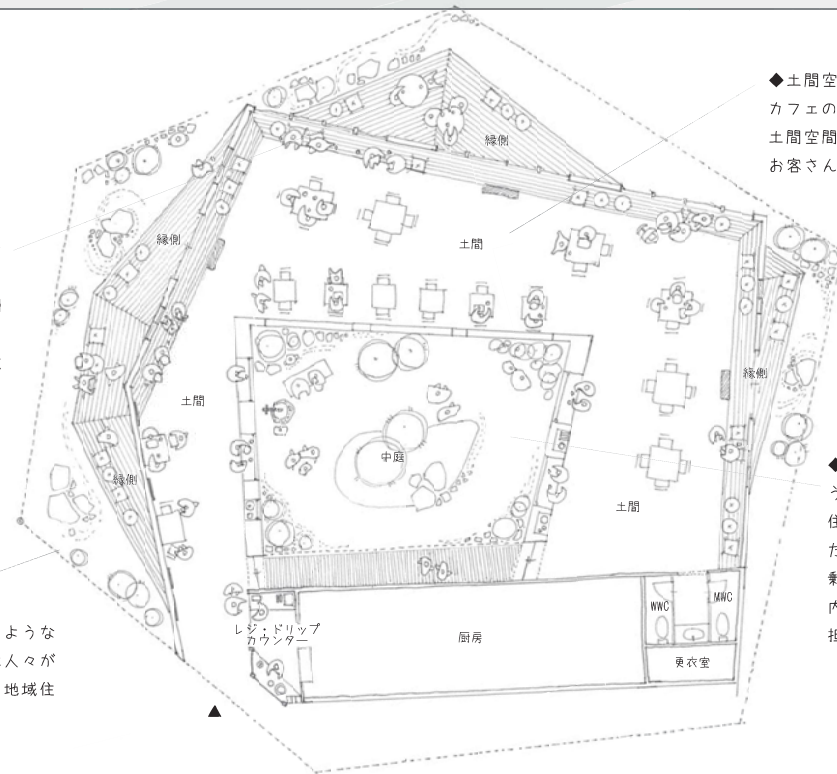


図2



◆土間空間

カフェの中にも外部と一体となるような土間空間を採用することで、外から来たお客さんを内側に引き込みやすくする。

◆中庭

うずまきの中心に位置する中庭は、住民たちがイベントの際に使用したり、地域性を取り込むための余剰空間とすることでこのカフェを内側から地域に帰属させる役割を担う。

図3